

編集・発行

平成29年1月30日

岡垣町農業委員会

☎ 093-282-1211



新規就農者紹介

手野地区で親元就農



おおた かつひろ
太田 勝浩さん (38)

岡垣町の認定農業者であり、水稲10ヘクタール、大豆5ヘクタール、ハウストマト27アールを作付されている大規模専業農家の太田照夫さんの長男で、平成27年4月に14年間勤めた会社を辞めて就農されました。

就農のきっかけ 小さいころは、両親の忙しそうな姿を見て、農家にはなりたくないと思っていましたが、30歳を過ぎる頃から、農業もいいなあと考え始めました。父の入院がきっかけとなり、多くの農地を耕作しているので迷惑はかけられないと、慣れない農作業に取り組みました。近くの同年代の農家の方から、いろいろな話を聞き薦められ、岡垣町の若手農業者の集まり「緑農会」に入会しました。色々な人との出会いがあり、大変役に立っており、今は、皆さんといろいろな行事に参加しています。

農業に携わってみて 農業の楽しみは、苗から成長を手助けしながら育て実を結び収穫できる。また消費者の方の「おいしい」その一言が最高です。

将来について 今後は、父や周りの仲間から多くの農業の知識を得て、経験を積み重ねていきたいです。目標は、面積を増やすというより、高品質、多収を目指していきます。また早く地域の役に立てるような農業者になりたいです。皆さん、今後ともよろしくお願いします。

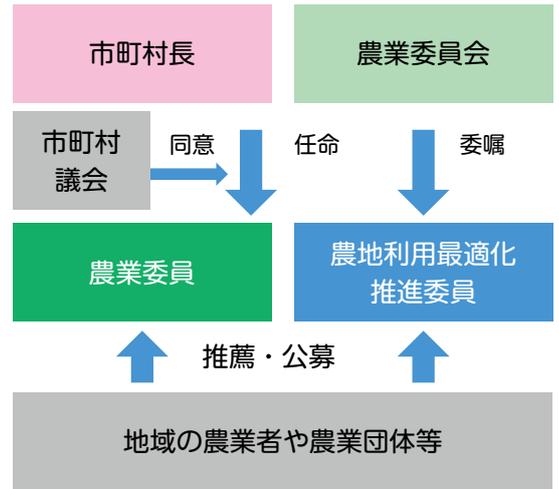
新たな農業委員会制度へ向けて!!

農業委員会等に関する法律が改正され、平成28年4月1日に施行されました。改正概要は「農業委員会だより」4号でご紹介しておりましたが、新たに農業委員会の役割や仕組みなどが大きく変わることになります。主な改正は、農業委員の選出方法の見直しや農地利用最適化推進委員の新設、農地中間管理機構との連携のもと、農業委員と推進委員が一体となって農地利用の最適化の推進に全力を挙げることが、農業委員会が果たすべき最大の使命とするものです。以下、本号ではその内容をお知らせします。

改正のポイント

- 1 農業委員会の業務が、農地の転用等に係る許認可業務だけではなく、担い手への農地の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進など「農地の利用の最適化の推進」業務が制度的に位置づけられています。
- 2 農業委員会の選出方法が公選制から町長の任命制に変わりました。
- 3 農地利用最適化推進委員（以下「推進委員」）が新設されます。

農業委員、農地利用最適化推進委員の選任のイメージ



農業委員の選出方法 公選制から任命制に!!

公職選挙法から、町長が議会の同意を得て任命。

任命にあたってはあらかじめ地域の農業者や農業団体に推薦を求め、公募も行います。推薦と応募の結果は公表が義務付けられています。

農業委員会
委嘱

農地利用最適化推進委員の設置!!

農業委員会は地域で活動する推進委員を委嘱します。農業委員会は、地区ごとに農業者等から推進委員の候補者の推薦を求め、希望者を募集し、その結果を公表、尊重します。



新制度での農業委員と推進委員の定数

農業委員と推進委員の定数に関する条例（平成28年12月議会で可決）

- 農業委員 12名 任用期間 平成29年7月20日～平成32年7月19日
- 推進委員 10名 任用期間 農業委員会の委嘱日～平成32年7月19日

農業委員及び推進委員に推薦・応募され岡垣町の農業の振興に参加ご尽力して いただけませんか!!

◎ 農業委員及び推進委員の選出の日安は以下の通りです。

- 農業委員
- ・ 認定農業者が過半数となること。
 - ・ 農業委員会の所掌に属する事項に関し、利害関係を有しないも者を1名以上。
 - ・ 女性や若者（概ね50歳以下）の積極的登用。
 - ・ 地域活動への取り組み、貢献等。

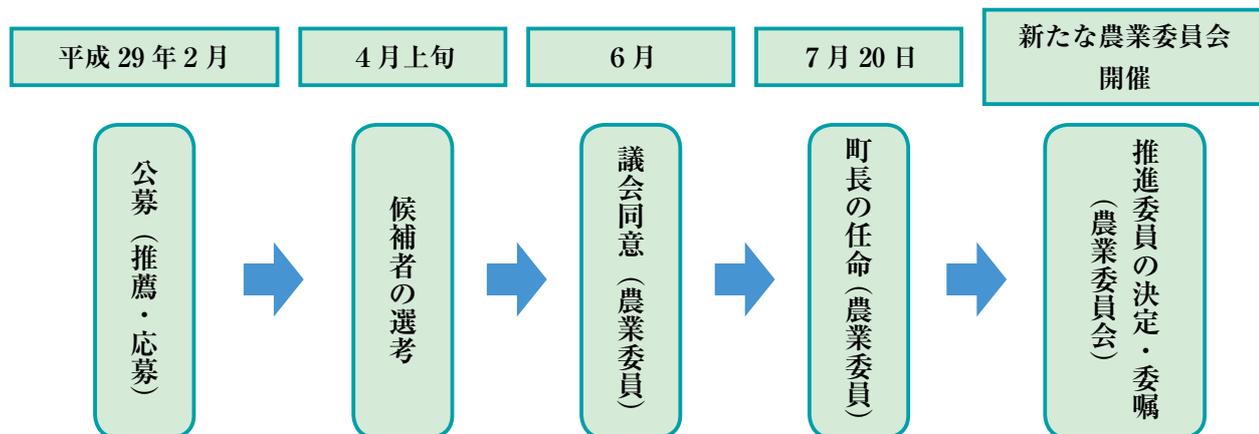
○推進委員

- ・ 担当地区ごとに選出。

※岡垣町では地域性等を配慮して、町内24地区を10担当地区に再編して10名の推進委員が受け持つ担当地区を以下のとおり決定しました。

| 区域番号 | その地区の区域 | 区域番号 | その地区の区域 |
|------|---------|------|-------------------|
| 1 | 湯川、波津、原 | 6 | 糠塚 |
| 2 | 内浦、手野 | 7 | 吉木(矢口、古小路、正矢口、早崎) |
| 3 | 新松原、三吉 | 8 | 上高倉、高倉 |
| 4 | 元松原、西黒山 | 9 | 上戸切、下戸切 |
| 5 | 東黒山、山田 | 10 | 野間、海老津、小局、上畑 |

農業委員及び推進委員の選任へ向けて次の通り計画しています。



【推薦】

- 個人の推薦は1名以上。
- 団体の推薦は、生産組合、町内会、水利組合など地域の推薦のほか、認定農業者連絡会などからの推薦を想定。

【応募】

- 個人での応募も可能。



推薦応募の受付期間 書類提出先

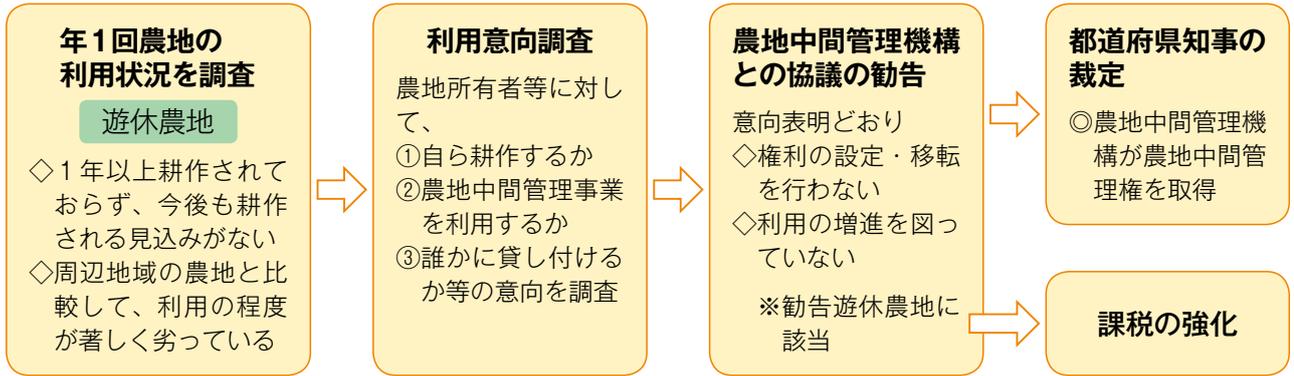
- ・ 平成29年2月1日(水)～平成29年2月28日(火)
- ・ 指定の用紙(産業振興課窓口を設置)に記入し役場産業振興課に持参又は郵送で提出ください。
- ・ 応募資格 農業に関する識見を有し農地等の最適化の推進に関する事項、その他農業委員会の所属に関する事項に関し職務を適切に行える方。その他詳細な事項については産業振興課までお尋ねください。
(産業振興課 ☎ 093-282-1211)

遊休農地の減少を目指して

農業委員会では、遊休農地の発生防止・解消のため、農地の利用状況調査を実施し、調査の結果、遊休農地と判定した農地の所有者等の方に対しては遊休農地の活用方法を確認するため、利用意向調査を実施します。

遊休農地の現状 山に接した集落が多いことから山間部の畑が多く、遊休農地の田畑の割合は概ね1対9となっています。農業委員会では遊休農地を解消するため、有効利用に向けた取り組みを進めています。管理されないままの農地は山林化している所が多くあり、そのような農地は、非農地判断（農業委員会だより5号に掲載）を実施し、所有者に対して「非農地通知書」を送付しています。

今後の取り組み 今年度の調査からは、利用が適正に行われていない農地が100ha程度存在することがわかりました。この面積は、町の農地の一割強を占める広さになります。この中で、再生困難な農地については、再度現地確認を行い、非農地判断を実施し、再生可能な農地については、農地の活用拡大を図ることが求められます。



第51回 農業祭

「おいしさは金メダル級！遠賀・中間の農の恵み」と題して、農業祭が12月4日（日）に、初めて岡垣サンリーアイで開催され、雨天にも関わらず多くの人で賑わいました。記念式典では、優秀な農産物の出品者、地域の農業振興に貢献した方の表彰が行われ、特別功労者の部では、岡垣町から「イオン農産物直売運営委員会（おかがきの会）」が、優良農産品の部では、岡垣町から8名の方が受賞しました。

地域の農の恵みなどを伝える各コーナーは多くの人で賑わい、地元産の元気づくしを使った「おにぎり体験コーナー」では、自分で握ったおにぎりを美味しそうに頬張る微笑ましい姿がありました。また、遠賀高校の生徒によるパウンドケーキの販売は毎年人気で、今年も多くの人が行列ができていました。

秋の恵みを収穫 ～脱莢機大活躍～

今年も生産者と消費者の交流の輪を広げる取り組みの一環として、10月8日に「枝豆狩り体験」を実施しました。

今年の枝豆の出来は天候不順の影響で幾分昨年を下回りましたが、約100名の参加がありました。農業委員会主催の枝豆狩りもすつかり定着した事業となり、年々常連の参加者が増えていっています。

また、今年も青柳委員が提供した脱莢機（枝豆のさやを取る機械）が大活躍し、機械を使用するための行列が途絶えることなく続きました。参加者の皆さんから帰り際に「ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。」などの言葉を頂くのも毎年のこととなりました。

農業委員会では、今後も消費者との交流の輪を広げる取り組みを行っていきます。

— 農業委員会からのお知らせ —
農地の売買・貸借・転用の申請手続きは農業委員会へ
申請締切日は毎月20日です
2023-2022-12-11

発行責任者 会長 田原 一男

編集委員会

| | |
|------|-------|
| 委員長 | 俵口 和義 |
| 副委員長 | 神屋 種義 |
| 委員 | 麻生 孝子 |
| 委員 | 刀根 基光 |
| 委員 | 広渡 輝男 |
| 委員 | 深田 明俊 |

編集後記 広渡 輝男

注目を集めた米国の大統領選挙は、メディアの大方の予想に反してトランプ候補が次期大統領に当選し、TPP（環太平洋経済連携協定）に反対の意思を表明した。今後、TPPの動向や、平成30年産の稲作から生産調整や最低補償の廃止など、日本の農業を取り巻く状況は予断を許さない。

さらに新たな農業委員会制度への対応や地域農業の振興へ向けた農業者、関係者の不断の努力取り組みが求められている。